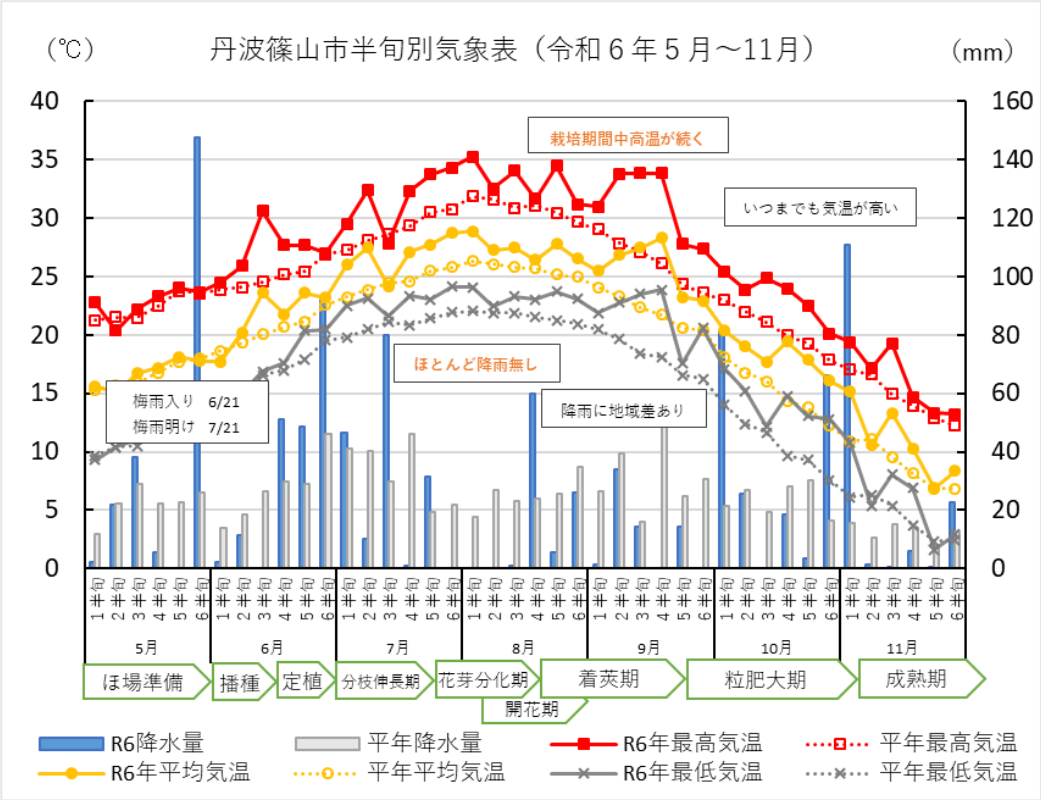
令和６年度丹波篠山黒大豆の生育状況について

丹波農業改良普及センター
【参考】丹波篠山市消防本部気象データ



１　気象状況

令和６年は、黒大豆栽培期間の６月から11月まで、気温がかなり高く推移した。梅雨入りは平年より15日遅い６月21日、梅雨明けは７月21日だった。その後１ヶ月間はほとんど降雨がなく、気温は梅雨明け後から異常に高い状況が11月まで続いた。降雨は地域間にかなりの差があり、ほとんど降雨のない地域も見られた。

２　生育状況について

ほ場準備から播種・定植作業は順調に進んだ。７月まで定期的に降雨があり、その後は高温多照傾向で推移したため、初期生育は平年を上回った。

梅雨明け後は、約１ヶ月間降雨のない地域もあったが定期的なかん水によって、昨年より着莢率が向上した地点もあった。しかし、９月以降も高温少雨・多照傾向で推移したため、粒の肥大不良や停止が生じ、生育は地域差が大きく、稔実莢数は平年より低下した。

11 月も高温が続き霜の降る日が遅く、葉の黄化と収穫作業が遅れた。

子実の充実がやや悪く小粒傾向で、10 月期以降に粒肥大が進み、１粒率は平年並となった。品質については、障子、裂皮粒等の被害粒が多く、等級Ｌ以下の割合も平年を上回り、小粒傾向となった。

３　病害虫発生状況について

茎疫病等の立枯性病害の発病株率は地域全体として平年より少ない結果だったが、一部の地

域で発生が見られた。べと病、葉焼病、ハダニ類、アブラムシ類の発生にはほ場間差があった。

ハスモンヨトウの被害株率が平年に比べて多く、一部地域では９月下旬に激発し、白変葉が多く見られた。カメムシ類は平年並みの発生だったが、一部のほ場で着莢不良や被害粒の発生が見られた。

表１ 丹波篠山市 枝豆期調査結果（調査日：10月15日）

調査項目	主茎長（cm）	全重（g）	主茎節数（節）	一次分枝数（枝）	稔実莢数（莢）	稔実莢重（g）	1粒率（%）	2粒率（%）	3粒率（%）
令和6年	**74.9**	**1536.9**	**18.6**	**13.4**	**121.9**	**375.2**	**58.9**	**30.4**	**1.6**
平　年	73.6	1832.0	18.0	8.9	153.9	566.3	52.4	46.3	1.3
平年比	102%	84%	103%	151%	79%	66%	112%	66%	125%
令和5年	67.1	1986.9	18.2	11.3	158.5	521.6	60.1	38.6	1.6

※平年値：過去10年間の平均値で、平成25年から令和4年の過去10年間の平均値（以下同様）

◎枝豆収穫期の調査結果は、主茎長は平年並、全重は平年比84％と低く、主茎節数は平年比103％と平年並みで、一次分枝数は平年比151％と多くなった。

◎稔実莢数は1株当り121.9莢で平年比79％、稔実莢重は375.2ｇで平年比66％となり、地域差が大きく見られた。

◎１株当りの粒数別莢の比率は、平年より１粒莢の割合が約１割多くなった。

表２ 丹波篠山市 子実期調査結果（調査日：1月９日）

調査項目	主茎長（cm）	主茎節数（節）	一次分枝数（枝）	二次分枝数（枝）	稔実莢数（莢）	稔実莢重（g）	1粒率（%）	2粒率（%）	3粒率（%）	粗子実重（kg･10a）	百粒重（g）
令和6年	**69.7**	**16.3**	**8.6**	**8.0**	**120.2**	**163.2**	**55.0**	**42.8**	**2.2**	**156.8**	**63.6**
平　年	73.3	17.8	8.8	4.7	144.1	204.9	55.1	42.8	1.1	212.5	70.7
平年比	95%	92%	98%	171%	83%	80%	100%	100%	212%	74%	90%
令和5年	71.0	16.0	9.2	3.2	126.4	168.6	63.2	35.6	1.3	183.0	65.1

◎子実収穫期の調査結果は、平年比で主茎長95％、主茎節数92％、一次分枝数98％、二次分枝数171％で、平年より株が小さく、二次分枝数の数が多くなった。

◎稔実莢数83％、稔実莢重80％と平年を大きく下回った。また、1株当りの粒数別莢の比率は１粒率、２粒率ともに平年並みであり、粗子実重は74％、百粒重90％と小粒傾向で収量が低くなった。

表３　等級比率（3L:>11mm以上、 2L:11mm～10mm、 L:10mm～9.1m、 M:＜9,1mm以下）

等　級	3L率	2L率	L率	M率以下
令和6年	**15.9**	**57.0**	**24.1**	**3.0**
平年値	23.9	58.4	15.4	2.2
平年比	67%	98%	156%	135%
令和5年	9.5	60.5	27.5	2.6

◎等級比率について、平年比で３Ｌは低く、Ｌ率、Ｍ率以下が高いことから、小粒傾向となった。

表４　被害粒の比率

調査項目	しわ粒率	障子粒率	茶斑粒率	変形粒率	裂皮粒率
令和6年	**10.3**	**14.4**	**6.5**	**8.2**	**24.5**
平年値	17.2	10.1	3.1	11.3	9.1
平年比	60%	141%	208%	72%	270%
令和5年	7.2	10.5	1.4	18.8	16.1

◎被害粒では、平年比でしわ粒、変形粒は少なく、障子粒、茶斑粒、裂皮粒が多かった。

図１　障子粒

図２　裂皮粒